

BSTJ

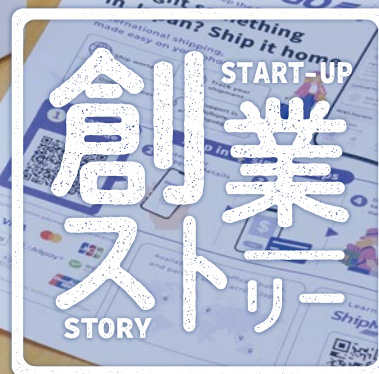
Business Support Team Journal
Vol.031

TAKE FREE

海外発送をもっと自由に簡単に。
世界と北海道・日本をつなぐ。



ShipMate株式会社
芦澤さん&ダニエルさんの



訪日外国人の「送りたい」を叶える、
海外発送イノベーション

ShipMate



誰もが簡単に荷物を海外発送できる仕組みを！ 実体験から生まれた、前例のないシステム&サービス。

年間4,000万人を超える外国人旅行者が日本を訪れる時代。訪日外国人の多くは長期滞在しながら各地を巡るため、旅が続くにつれ荷物も増えていきます。旅先で気に入った商品も、スーツケースに入らなければ持ち帰ることはできません。そんな困りごとに目を向けたのが、芦澤望さん、ダニエル ディアネスさん夫妻が立ち上げたShipMateの新しいサービスです。



目指したのは、「手ぶらで日本を楽しんでもらう」こと。個人で荷物を海外発送するには、国ごとに異なるルールの確認や書類作成など、煩雑な手続きが必要です。国際カップルであるおふたりもその不便さを何度も経験。「誰もが簡単に海外発送できる仕組みが必要」と考えたことが、システム開発の原点になりました。

さらに、日本国内に住所を持たない訪日外国人は、配送会社で荷物を受け付けてもらえないのが実情です。こうした課題を解決するために開発したのが、スマートフォンで簡単に海外発送を手配できるツール「ShipMate GO」。旅先で買ったものを手軽に自宅へ送れる、海外発送サービスです。

秋葉原で実証実験を行ったところ、「好きなもの、欲しいものをあきらめなくていい」「荷物を簡単に送れるならもっと買いたい」という声が多く寄せられました。「訪日外国人が求めているのは、いわゆる爆買いではなく、その土地でしか出会えない商品を重視する体験価値です」と芦澤さん。

送料がかかっても欲しいと思える商品との出会いは、旅の大切な思い出です。ShipMateは、その感動を帰国後にもつなぐ仕掛けも見据えています。今後は越境ECを通じて、旅先で出会った北海道をはじめ日本各地の商品を帰国後も購入できる仕組みを整え、旅の体験を継続的につないでいく構想です。



今年、ビジネスの面でメリットが大きい東京支社を開設しましたが、本社を北海道から移す考えはおふたりにはありません。「北海道に帰ってくるたびに癒やされる。この時間を大事にしたい」と芦澤さん。地域の魅力を世界へ届け、小ロット・高付加価値商品を手がける地方の生産者や事業者を応援したい――。そんな思いを胸に、北海道から世界へ向けた挑戦を続けています。

ShipMate株式会社

代 表 芦澤 望 (あしざわ のぞみ)

C T O (最高技術責任者) ダニエル ディアネス

U R L <https://www.shipmate.jp/>



創業の動機や経緯について

コロナ禍で決めた移住が、未来を動かすきっかけに。

シンガポールで出会い、結婚した芦澤望さんとダニエル ディアネスさん。当時、ダニエルさんは現地企業でソフトウェアエンジニアとして活躍し、多彩な仕事を手がけていた芦澤さんは日本とシンガポールを往復する日々でした。新婚生活が始まって間もなく、新型コロナウイルスが猛威を振るい、シンガポールはロックダウンを実施。おふたりは北海道・鷹栖町への移住を決意しました。「ダニエルの故郷・ノルウェーと似た気候と、食べものおいしいのが決め手でした。地縁はありませんでしたが、思い切って決めました」と、芦澤さん。この決断が、思いもよらない創業のきっかけにつながります。

「面倒くさい」が事業の原点。困りごとがビジネスの種に。

ノルウェーでは、家族でクリスマスプレゼントを贈り合う習慣があります。「そのプレゼントを海外発送する手続きが本当に大変なんです」。品目ごとの詳細申告や国によって異なるHSコード(通関コード)の特定、条約や禁制品の確認など、手続きは想像以上に煩雑。「日本人が日本語で手続きしているのに面倒くさい(笑)。これが外国人ならなおさらです」。さらに、鷹栖町でふるさと納税返礼品事業者のサポートをする中、越境ECなど海外販路について相談を受ける機会もあり、自分たちだけでなく地域にも同じ課題があることを実感。「誰でも簡単に海外発送ができる方法があれば」――。そんな思いから、「ShipMate GO」が生まれました。

創業年表

2019年

シンガポールにて
芦澤さんとダニエルさんご結婚

2020年

北海道・鷹栖町へ移住。
「ペトリコール株式会社」を設立

2024年

スタートアップを育てるための
研修・支援プログラムに参加

2025年
2月

社名を「ShipMate株式会社」に変更。
海外発送事業へ業態転換

2025年
4月

北洋銀行・日本政策金融公庫から
デットファイナンス3,000万円を実施

2026年

「ShipMate GO」の
サービスを開始

2026年

東京支社を開設



創業時の苦労・悩み・解決方法について

「しょうがない」では終わらせない。 その挑戦が道を切り開いた。

誰でも簡単にできる海外発送手配。前例のない領域だけに、芦澤さんが挙げる苦労は多岐にわたります。国際物流の慣例、物流大手独自のシステムなど、次々と課題に直面しましたが、「しょうがない」では終わらせませんでした。「ダメ元で大手さんにメールをしてみると、ちゃんと話を聞いてくれるし、応援もしてくれることがわかりました」と芦澤さん。時間はかかったものの、少しずつ状況を打開していきました。一方、技術面では配送可否の判定からHSコードの自動生成、書類作成までを多言語で一気通貫に行う仕組みで特許を取得。エンジニアとしての技術力と、当事者としての視点。その両方を兼ね備えたダニエルさんの存在が大きいといいます。

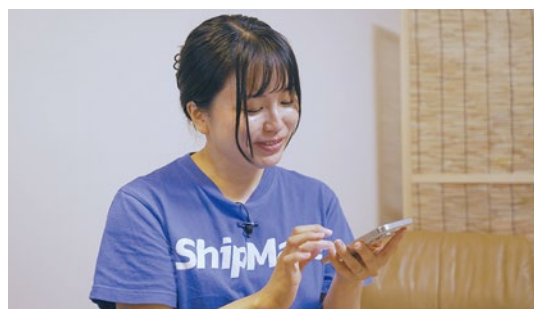
挑戦に寄り添う 支援が心強い後押しに。

資金調達では北海道信用保証協会を利用。「最初はお金を借りる保証人になってくれるだけの機関だと思っていました」と振り返る芦澤さん。しかし、実際には挑戦を後押ししてくれる存在だったと話します。「事業計画の作成に関するアドバイス、ニーズに応じた金融機関の紹介、補助金情報の提供、さらにはPRやイベント出展のサポートまで伴走支援してくれました。今後も保証協会さんとはお付き合いをお願いしたいです」。



①二次元コードを読み込むだけ

スマホから配送情報を入力。日本語の書類作成は不要で、海外発送の手続きを簡単に始められます。



②商品情報を入力するだけ

送り先の国ごとのルールを自動チェック。送れない品目などを事前に判別し、税関手続きもスムーズに進められます。



③提携事業所で二次元コードを見せるだけ

送り状は自動で発行。カウンターでの面倒な手続きや支払いは不要。荷物を預けるだけで発送できます。

経営において心がけている事

急ぐけれど、焦らない。 仲間の才能を力に変える。

「私自身、能力が高いと思ってはいないんです」と芦澤さんは笑います。「私の才能は、使命感と才能を持つ仲間や、応援してくださる方々が集まってくれること。スタートアップにありがちな組織の混乱を避けるため、『急ぐけれど焦らない』を大切に、一人ひとりの得意分野を生かせるチームづくりを心掛けています」。月に一度は全員で芦澤さんとダニエルさんの手料理を囲み、交流を深めるのもそのひとつ。「皆さんからいただいたチャンスに応えたい。それが私の経営スタイルです」。

Start UP! Advice

これから創業を考えている方へのアドバイス

キーワードは「結」と「凸凹」

「団結の結です。起業はひとりの力ではできないので、いろんな応援を集めて事業推進につなげてください(芦澤)」「起業はデコボコ道のようなもの。走り続ければ、必ずゴールに辿り着きます(ダニエル)」



芦澤さん、ダニエルさんの創業ストーリーの詳細はYouTube **オ-エンチャンネル** をご覧ください。



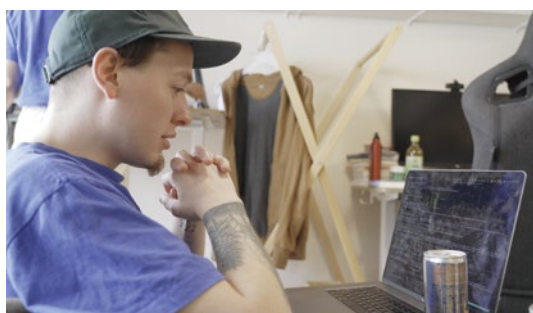
今後の 展望

世界をもっと近くする、 ShipMateの次の一步。

現在、札幌市時計台近くのNAKAHARA DENKI Free Information Gallery(中原電気フリーインフォメーションギャラリー)にて「ShipMate GO」の二次元コードを試験設置して観光の途中でも、お土産や購入した商品をその場で簡単に海外へ発送できる環境を整え、多くの訪日外国人に利用してもらえるサービスづくりを進めています。

北海道や日本各地には、世界に誇る魅力的な商品や文化、地域に根差した職人の技術が数多くあります。しかし、前述の通り「荷物が重くなってしまう」「スーツケースに入りきらない」「海外への送り方が分からない」といった理由から、購入をあきらめてしまう旅行者も少なくありません。ShipMateは、こうした旅先での課題を解決し、「欲しい」という気持ちを確認な購買へつなげることで、訪日外国人の利便性向上だけでなく、地域の店舗や事業者の販売機会の創出にも貢献していきたいと考えています。

今後は、観光案内所や商業施設、ホテル、道の駅、空港、駅、免税店など、訪日外国人が訪れるさまざまな拠点への導入を進めるとともに、サービス対応エリアや配送ネットワークをさらに拡充し、北海道全域、そして日本全国への展開を目指しています。



さらにShipMateが力を入れているのが、海外発送をより手軽にする最新の技術開発です。現在取り掛かっているのが、商品画像から通関に必要なHSコードをAIが自動判定する仕組みです。将来的には、スーツケースの中身を撮影するだけで、発送手続きまで完了できるシステムの実現を目指しています。

加えて、蓄積されたさまざまなデータを生かし、地域が継続的に「外貨を稼ぐ」ためのインフラへ育てていくという構想も。

こうしたShipMateの取り組みやビジョンは、さまざまな企業や投資家から評価を得ています。北海道から生まれたスタートアップとして、日本各地の価値ある商品や文化を世界へ届け、人・地域・世界をつなぐ新しい海外発送プラットフォームの実現に向け、これからも挑戦を続けていきます。



北海道信用保証協会 information

北海道信用保証協会について

Q 信用保証協会ってどんな組織？

A 信用保証協会は、中小企業者のみなさまが事業資金を金融機関から借入する際に、その借入債務を保証することによって資金調達の円滑化を図り、中小企業者の健全な発展を促進することを目的として設立された公的な保証機関です。

Q どんなことを行っているの？

A 金融機関からの借入債務を保証する他に、中小企業者のみなさまが抱える経営上の課題や悩みに関する相談、その相談を解決するための専門家(中小企業診断士など)の派遣等による経営支援を行っております。

創業支援・経営相談メニュー

創業者向けの保証制度や経営相談メニューを紹介します。

創業者向け保証制度

保証限度額	信用保証料率
3,500万円	創業関連保証 0.86% ※その他お客様の 定性要因により、 さらに割引になる 場合があります
担保不要	スタートアップ 創出促進保証制度 1.06%
保証期間 10年以内	スタートアップ創出 促進保証制度は 保証人不要

詳細については下記フリーダイヤルや当協会ホームページからお問合せください。

経営相談

創業に関する一般的な相談から、資金調達に関する相談、事業を開始した後の経営相談に至るまで、あらゆる相談を承っております。何度ご相談いただいても無料ですので、まずは下記のフリーダイヤルまたは当協会ホームページよりお気軽にご相談ください。

フリーダイヤル



ツ ナ グ ゴ シ エ ン
0120-279-540

フリーダイヤルがご利用いただけない場合は、本店・業務統括部企業支援課011-241-5605をご利用ください。



オンライン経営相談

オンライン経営相談申込方法

① 当協会HPの「オンライン相談」のバナーをクリックします



② 申込フォームに必要事項を入力します

必要事項
●申込者氏名 ●相談内容
●住所 ●相談希望日時
●連絡先(電話・メール)



③ 当協会からオンライン経営相談のURLがメールで届きます



※事前に相談内容や日程調整のため電話をさせていただきます

④ 相談日当日に経営相談を実施します



START-UP! BUSINESS SUPPORT TEAM JOURNAL VOL.031

発行人

北海道信用保証協会 業務統括部 経営支援室 企業支援課
札幌市中央区大通西14丁目1 TEL.011-241-5605
<https://www.cgc-hokkaido.or.jp/>



LINE
公式アカウント
北海道信用保証協会



2026.09